

くらし 支える

初  
釜

今年も社中の「初釜」茶会を開くことができた。その日、外は銀世界だった。

私が入門したのは20歳過ぎのこと。故・畠山森抱先生の「指導の下、たくさんの先輩方と学んできた。毎年初釜を皮切りに、節分や朝顔、ススキなど季節との茶会に加え、「田の庄」、「夜詰」の茶会。また、田沢湖マラソンでの呈茶、田沢湖畔や抱返り渓谷での野なご、全国大会でのお点前、宗匠をお迎えしての進級茶会、韓国での交流の

## えんびつ四季

子育てや仕事で忙しい時期もあつたが、先生のお人柄と茶席の雰囲気に引かれるものがあり、通い続けてきた。

大きな足跡を残していくさつた畠山先生が旅立たれた後、社中は次の先生に託された。これまでいろんなよどみも行き違いもあつたかも知れないが、お茶の精神を通して一同を包んでくれた。

それでも、感謝の気持ちを込めて初釜を執り行うこと決めた。「2人の先生方、どうぞ見守つていてください。そして一緒に来てください」。しゅんじゅんと沸く釜の音を聞きながら、一服の茶にみんなで心を寄せ合って年始めの行事を終えた。迷いの中に突き落とされた。

■エビと春菊のかき揚げと  
ゴボウのひらひら揚げ 2人  
分で殻付きエビ2匹、春菊40  
㌘、玉ネギ60㌘、ゴボウ80㌘、  
天ぷら粉60㌘、サラダ油適量  
を用意します。

エビは殻と背わたを除いて  
3等分に切り、春菊は長さ3  
㌢くらいに切り、玉ネギは細  
維に沿った薄切りにします。  
ゴボウはピーラーで長いリボ  
ン状に切ります。

ボウルにエビ、春菊、玉ネ  
ギ、天ぷら粉30㌘を入れてま  
ぜ、水30cc前後を加えてまぜ

## えんぴつ四季投稿規定

日常生活で心を動かされた出来事などをテーマに、文章を600字程度（タイトルは別）でまと

民間主導 出所者の就労支援

刑務所の出所者や少年院の出院者に働く場を提供し、更生を促す「職親プロジェクト」がスタートから12年となる。支援を受けたのは延べ1100人余りに上る。この取り組みを題材にしたドキュメンタリー映画「おまえの親になったるで」(北原良枝監督)が各地の劇場や刑務所などで上映され、理解と協力の輪を広げている。

# 「職の親」自立更生後押し



職親プロジェクトで千房に就職し、  
お好み焼きを調理する男性（右）

談する人がいない」と答える受刑者。乱れた家庭環境、殺伐とした人間関係の中で孤独や自暴自棄に陥り、罪を犯した経緯を告白する。更生の誓いに耳を傾けるカンサイ建装工業（大阪）の社長草刈健太郎さんは、自社で雇うこと約束し代わりの身元保証人になると伝える。同映画の一場面だ。

「アロジエクト」は日本財団が助成し、民間が主導。出所者・出院者が再び罪を犯さないため、企業経営者が「職の親」となりて就労を助け、自立更生を後押しする。雇用主となる参加企業は全国で20社を突破した。

に舞走  
苦闘する姿を映し出す。実の妹を殺害された過去があり、「なんでも自分が」と感いたつた。でも「再犯を減らせばそれだけ被害者をなくせる。安心・安全な社会にするため一肌脱ぎう」と悪い直したといふ。

155年から23年まで40%台後半に高止まり状態。  
ほぼ2人に1人が再び罪  
を犯している計算だ。  
プロジェクト代表で、  
お好み焼き専門店「千房」  
会長の中井政嗣さんは出  
所者・出獄者を各地の店  
で雇用している。「仕事  
も居場所もなくて再び罪  
を犯す例が多い。しかし  
た状況をなんとかした、  
という熱い思いで、経営  
者たちはがんばっています。  
社会の理解と支えが

A portrait of a man with dark hair, wearing a dark suit jacket over a white shirt. He is looking slightly to his left. The background is plain white.

## 映画化で広がる理解の輪

には、支援を受けて更生した人たちの「『親』として引き受けた以上、何度も助ける」という社長の言葉で社会に戻つて来られた」「本意で話してくれる社長との出会いをきっかけに、間違つた意識で生きてきた自分が変わつた」といった声が紹介されている。

日本財団のプロジェクト本部事務局長の原田裕さんは出所者・出院者を巡り①当事者の更生意欲の向上②企業の受け入れ態勢の強化③社会的偏見の解消――がいつそう求められるとして指摘する。

「仕事を通じて社会に貢献し更生した人を、どうか社会の一員として認めていただきたい。これからもプロジェクトへの応援をお願いします」

映画「おまえの親になつたる」の上映会情報は公式ホームページで。

秋田北高生 3人が入選 小中高生や大学生を対象とする短歌コンクール「第38回現代学生百人一首」(東洋大主催)の入選作100首が決まりました。本県からは秋田北高校生3人の歌が選ばれました。入選したのは、澤井愛夏さん(秋田北高1年)の「急上昇熊の出没秋田県ご先祖様に会いに行けない」、船木爽羽さん(同)の「勇氣出し君に伝えた二文字が八号玉にかき消されてく」、渡部菜さん(同)の「おばあちゃんJKよりも略語使う「け」の一文字の意味は膨大」。応募総数は5万8833点(うち本県は3211)

「へガザの記事弟と同じ年」の子が瓦礫の中で今も生えてる／（山形・高校3年）、「～コース見て終わらぬ復旧続く豪雨（石川・高校3年）など、戦争や災害への憂いを込めた歌が目立った。

「これA-I?」ちゃんとやっても疑われヒトの証拠を探し求める／（東京・高校3年）と庄成人工知能（A-I）を説いた作品や、スマホ越し打ち上げ花火は映えのためレンズの先は知らないままで／（東京・中学1年）のように交流サ活への違和感を表現した歌もあった。

青少年読書感想文  
本県審査で117点入賞  
**最優秀10点、中央審査へ**  
第70回青少年読書感想文全国  
コンクール（全国学校図書館協  
議会などの主催）の本県審査が  
行われ、小学校低学年、同中学  
年、同高学年、中学校、高校の  
各部で計117点が入賞した。  
最優秀賞の10点は都内で行われ  
る中央審査会の対象となり、結  
果は2月に発表される。  
自由読書と課題読書の各部門  
に県内の小学校から315点  
点、中学校から280点の点、高  
校から113点の計71125  
点の応募があった。  
(高橋美佳)  
主な入賞者は次の通り。(敬  
称略)

△優秀賞 II 小納みなみ(麥丘年)、落合桜太郎(秋田東)  
 亀井沢衣代(皆瀬1年)、央(能代第四1年)

【同・課題】△最優秀賞  
 本晴(醍醐1年)、△優秀賞 II 加藤ひづる(稻川高橋あきら(山内1年)、琉花(稻川1年)

【小学校中学年・自由】  
 優秀賞 II 加藤ひづる(稻川高橋あきら(山内1年)、△優秀賞 II 小畠結菜(早年)、大塚野乃花(淳城南)、松澤晃一(出云4年)、桂澤穂乃花(早口3年)

(泉4年)

【同・課題】△最優秀賞  
 井咲希(朝倉4年)、△優秀賞 II 高橋明日香(雄物川4年)、澤穂乃花(早口3年)

【小学校高学年・自由】  
 優秀賞 II 鎌田珠季(上北手)、△優秀賞 II 藤原悠華(尾上)、大坂佳凜(横手南)